

袋井幸浦の丘プロジェクト

2021

ニュースレター

これまでのワークショップのふりかえり(H28～R2)

平成 28 年度に袋井幸浦の丘プロジェクトを立ち上げ、地域の皆さんが主体となり、平成 29 年度からは、秋祭りクイズラリーやラグビーパスリレーなどのイベントを開催し、防潮堤の利活用について検討を重ねてまいりました。令和 2 年度は、浅羽海岸のほぼ中央に位置し、駐車場があり、既存施設（浅羽体育センター）を含めた利活用が期待できることから同笠エリアの施設整備について検討を行い、各場所の特徴や使い方、維持管理の仕組みなどについて考えてきました。

ワークショップでの話し合いを通じて、このエリアが持つ、他の地域にはない特徴が見えてきました。そして、防潮堤と浅羽体育センターに回遊性をもたせた拠点を決めそれらの場所の可能性を確認し、どの様に使用したいか、といったことを話し合いました。

また、最終回は、コロナ禍のため、展示により意見を募りました。国が新たに指定したナショナルサイクルルート（太平洋岸自転車道）を意識した「地域の住民、来訪者、県外の人に幸浦を PR 出来る場所にしたい」「県とタイアップし、自転車利用者のオアシスとなるような場所としたい」という意見などもありました。また浅羽体育センターエリアについては、具体的施設要望とともに、「ストーリー性があり広場周辺に回遊性を生むような提案が欲しい」などの意見もありました。



平成 30 年度：地域の海との関わり
の物語に親しむ機会を設ける必要
があるという結論になり、幸浦秋
祭りでのクイズラリー等を実施。



令和元年度：防潮堤空間を皆で実
際に使う機会を設けてみようとい
う結論になり、防潮堤天端でのラ
グビーパスリレーを開催。

Step1

防潮堤を歩き、
このエリアの特
徴や施設がある
と良い場所につ
いて話し合う

Step2

それぞれの場所
に施設がもしあ
れば、どの様に
使用したいかにつ
いて話し合う

Step3

防潮堤や施設が
整備された場合
の、維持管理の
仕組みについて
話し合う

令和 2 年度：将来を見据えた施設整備について
3つのステップで話し合いを実施。

令和2年度ワークショップを通じて

Aの場所についてワークショップでは野球場やまちを眺められる施設
や日かげで休憩できるスペースが欲しいといった意見が多く寄せられ
ました。

Bの場所についてはイベントの際に活用できる施設、海を眺められる
場所が欲しいといった意見がありました。

Cの場所については、あると良い施設について、シャワー・着替え
の施設や海に入った後に利用できる手洗い場、トイレ、広場にベンチ、
遊具などの施設があると良いという意見がありました。



海へと抜ける動線と
広いスペースがある

B

海へ

太平洋岸自転車道

海

A

浅羽体育センター

野球場

北は近景・遠景とも
眺望が開けている
南は防潮堤の松を観
る事ができる

遠方からの来訪者もあり他地域と繋がる

今年度(R3)の検討 袋井市の南の玄関口として

今年度は、昨年度までのワークショップ等で頂いた意見を手がかりとしながら、施設整備の基本的な方針を検討しました。浅羽体育センターを含めた同笠エリアの中でも、防潮堤エリア (B) をまず第一段階の整備対象として、袋井市の南の玄関口としての顔づくりのあり方を検討しました。

このエリアは、南北に抜ける通路、広いスペースと高低差があり、太平洋岸自転車道や海の利用者を北側へといざなうことのできる場所です。ここに、高低差を活かし、ひな段状の滞在できる居場所を整備し、マルシェなどイベントにも活用できる場を創出します。

車も乗り入れることが可能な整備を検討する事で、利活用の幅を広げます。防潮堤側の滞在性があがり、スロープや南北通路の整備によりアクセスが向上することによって、浅羽体育センターとの回遊性をもたせるとともに袋井市内の観光施設や中心部への人の流れを生むことを目指します。

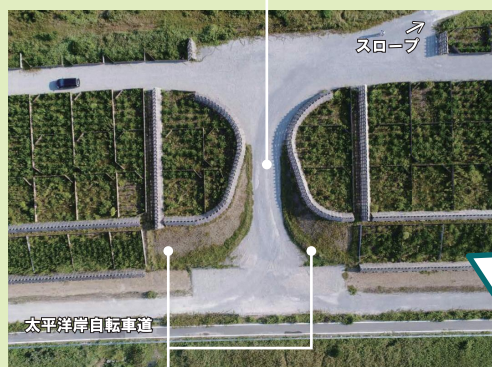


サイクルルート利用者など他地域と繋がる



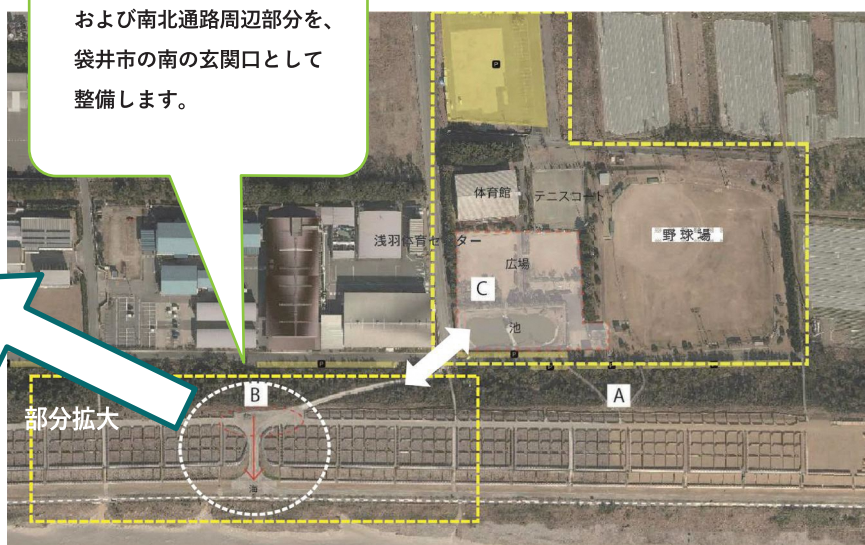
袋井市の南の玄関口としての顔・情報提供

車輦の乗り入れが可能な整備を検討していきます。



法面部分とその周辺を整備し、ひな段状に座り休憩し、イベントもできるスペースにする。

第一段階整備として、防潮堤および南北通路周辺部分を、袋井市の南の玄関口として整備します。



部分拡大



海へ抜ける南北通路のイベント利用のイメージ